

## モデル地区審査会のコメント

| モデル地区審査委員構成 |  | 会議名                          | 審査会日      | 市名   |
|-------------|--|------------------------------|-----------|------|
| 会長          | 橋爪 紳也                                      | 石畳と淡い街灯まちづくり<br>支援事業モデル地区審査会 | 平成24年2月3日 | 岸和田市 |
|             | 大阪府立大学21世紀科学研究特別機構教授<br>同大学観光産業戦略研究所長      |                              |           |      |
| 委員          | 増井 正哉                                      |                              |           |      |
|             | 奈良女子大学生生活環境学部住環境学科教授                       |                              |           |      |
| 委員          | 嘉名 光市                                      |                              |           |      |
|             | 大阪市立大学大学院工学研究科准教授                          |                              |           |      |
| 委員          | 中嶋 節子                                      |                              |           |      |
|             | 京都大学大学院人間・環境学研究科准教授                        |                              |           |      |
| 委員          | 田中 隆好                                      |                              |           |      |
|             | 大阪府府民文化部都市魅力創造局都市魅力課<br>大阪ミュージアム構想推進グループ参事 |                              |           |      |
| 委員          | 野口 雅昭                                      |                              |           |      |
|             | 大阪府教育委員会文化財保護課長                            |                              |           |      |
| 委員          | 磯崎 弘治                                      |                              |           |      |
|             | 大阪府都市整備部市街地整備課長                            |                              |           |      |

| 委員会のコメント<br>(事業実施内容・指標達成状況・今後のまちづくりの方策等について)  |  |
|---|--|
| <b>(事業実施内容)</b>   |  |
| ①全般的に整備が遅れ気味なのが残念である。また整備個所が分散しているところなど部分的に改善する余地もあると思える。                                   |  |
| 今回は施設整備や公共空間主体の整備だったが、引き続き建築物の修景や景観条例、景観計画等による誘導や、地元の景観形成・保全の方針づくりなどを継続していくと、より今回の整備が活きてくる。 |  |
| ②整備が精力的で実績も上がっていることは高く評価できるが、今回の整備全体のデザインポリシーを明確にして欲しい。                                     |  |
| ③色々な要素が重なっているまちであるので、お城、だんじり、寺町、近代建築、著名な人物など、まちづくりの核をそれぞれ分けるなどして整備の方向性を再度検討して欲しい。           |  |
| 報告の中で、「ハード整備を活かしたソフト事業の実施」とあったが、本事業はソフト事業が充実しており、逆にソフト事業から見えてくるハード整備の在り方もあって良い。             |  |

**(指標達成状況)**

①ボランティアガイド利用者数、観光施設入込数が急増しているのは本整備だけの影響かどうか検証されたい。「世界に一番近い城下町」というコンセプトからすると外国人入場者数が伸びなかったのは残念で、PR等の工夫も必要である。  
夜間照明等の効果が把握できるような評価が含まれているとより良かった。  
全ての整備が出来上がった段階でのフォローアップも是非お願いしたい。

②評価指標としている外国人観光客数については、岸和田城の入場者数による計測となっているが、そこだけでなく岸和田市全体で把握するよう検討されたい。

**(今後の方策)**

①今回整備したルートを回遊するようなまち歩きルートの作成やツアーを定着させるなど、ソフト面の取り組みも充実することを期待する。

②色々なイベント的仕掛けや観光を活かしたまちづくりのアイデアがあり期待できるが、具体的な景観整備や環境保全とどのように関連させていくのかが、今後の課題である。

③「世界に一番近い城下町」というコンセプトを非常に高く評価していた。

また今年は震災などの影響もあり、外国人観光客数が減っているが、もう一度コンセプトの原点に戻り、今後は外国人観光客を増やす仕組みを考えて欲しい。

④商店街のもてなし感が少し低いように感じるので、例えば、ウィンドウショッピングが楽しめるようなショーウィンドウの充実なども併せて行い、地域経済の活性化につなげて欲しい。